

お知らせ 講演と映画の夕べ

社団法人 第一次世界大戦博物館 主催

 オーストリア文化フォーラム

4/23 (月) 18:15 ~ 20:35

表参道 東京ウィメンズプラザ・ホール

歴史家は警告する

講演 戦争が近づいた時 1914年夏
何があったか (ドイツ語/通訳つき)

映画 サラエボ・ここから世界の混乱が
始まった (ドイツのテレビ番組日本語字幕)

<https://ww1jp.wordpress.com/>





血塗られた手を隠して、子供たちを戦争へおびき寄せるドイツ皇帝



清国の切り刻みを企む大國。上 清の皇帝
下左から英国女王ヴィクトリア、ドイツ
皇帝ヴィルヘルム2世、ロシア皇帝ニコ
ライ2世とアレクサンドラ妃、天皇

映
画

歴史ドキュメント
『サラエボ』

—ここから世界の混乱が始まった—
(ドイツのテレビ番組・日本語字幕つき 45分)

講
演

クリスチャン・ラップ博士
「戦争が近づいた時
—1914年夏何があったか—」
(ドイツ語 / 通訳つき 80分)



戦争で明け暮れた20
世紀だった。日露戦争、
第一次大戦。第二次大
戦、冷戦、中東やペト
ナムやイラン・イラク
の戦争。ユーゴスラビ
ア紛争。中東の混乱は
出口さえ見えない。
そもそも元凶が第一
次大戦なら、今とどこ
が似ているのか。
その歴史の扉を開ける
のは、私たちだ。

歴史は警告する
今は、
100年前の
大戦前夜と
そっくりだぞ、と

＝ オーストリア文化フォーラム

開場/18:00 講演/18:15~19:35 映画/19:50~20:35
一般 ¥2000 学生 ¥1000

東京ウィメンズプラザ・ホール
(表参道徒歩7分) [地図は裏面]

チケットお申し込み

tel: 090 2916 3204 (渡辺)

mail: ww1jp@icloud.com (事務局)

4/23 Mon

ドイツ・オーストリアの両皇帝、皇太子たち、陸軍
総司令官たちの顔入り扇子。戦争援護局が配布

主催 www.ww1jp.org 社団法人・第一次世界大戦博物館

<https://ww1jp.wordpress.com/>

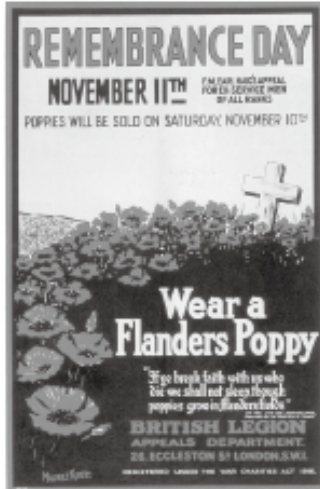




「血濡れた手を洗って罪を隠そう」



志願兵募集で成功した英国のポスター



ポピーを胸に、戦争を忘れないために

講演

「戦争が近づいた時

— 1914年夏何があったか」(ドイツ語/通訳つき80分)

その夏、ヨーロッパ社会は高度な文明のもと、裕福になり、夏の太陽を浴びてバカンスを楽しんでいた。長らく平和がつついていたので、まさか数週間のうちに戦争が起きるなんて、大多数の人々は思ってもみなかった。社会に批判的だったインテリたちが、凝固まった社会を活性化するには 夕立ちていどの小規模戦争はあるかもしれない、とは思っていた。予期せずして始まった戦争を、人々は歓呼で迎えた。すぐに片付けてクリスマスには家へ戻ってくるぞ、と兵士たちは敵も味方も信じたのだ。ところが4年も続き、4つの大帝國が崩壊、大混戦が始まり、1600万人が死んでしまうなんて、誰も予想できなかった。さて、今の私たちはどうだろう？明日が見えているだろうか。



クリスチャン・ラップ Christian Rapp

博士。オーストリアの州立歴史館館長。文化学者・展覧会計画実行者・大学講師の3本柱で活躍。代表的展覧会は、第一次世界大戦をテーマにした大展覧会「歓喜と悲惨—大戦争とともに生きる」(2014)は17万人の観衆を呼ぶ人気を集めた。



映画

『サラエボ—ここから世界の混乱が始まった』

(ドイツのテレビ番組・日本語字幕つき45分)

戦争とは人間の、故郷の、祖国の破滅だ。こんな目に遭遇したいと誰が思うだろう。できるなら顔を背けているあいだに過ぎ去ってくれば・・あるいは、それほどひどいことは自分の身に限っては起きないだろう、と人はとかく希望的観測をするものだ。戦争勃発の3日前にさえ、当の皇帝たちも開戦は頭になかった。まして4年後には自分の帝國が崩壊、全てを失うことになるなんて。歴史家が自國の犯した過ちを見据え、世界に訴える、心打つドイツのテレビ番組。

東京ウィメンズプラザ

東京都渋谷区神宮前 5-53-67

- JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線/渋谷駅 宮益坂口から徒歩12分
- 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線/表参道駅 B2出口から徒歩7分
- 都バス(渋谷8系統)渋谷駅から2つ目(4分) 青山学院前バス停から徒歩2分

